グループホームきらめいと土気

平成　21　年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	1270500687		
法人名	株式会社　日本医療事務センター		
事業所名	グループホーム きらめいと土気		
所在地	千葉県千葉市緑区土気町４４６－６		
自己評価作成日	平成22年3月9日	評価結果市町村受理日	平成22年6月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyo.com/kaigosip/Top.do

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人ＶＡＩＣコミュニティケア研究所
所在地	千葉県千葉市中央区千葉港4-4　千葉県労働者福祉センター５階
訪問調査日	平成22年3月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念である　《心》
「お一人おひとりを思いやる“心”」
「その方の今を優しく見つめる“心”」
「人はすべて“心”と考える」
を念頭に置き “こころ” のこもったケアに努めている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

周りを自然に囲まれた緑豊かな環境にあるホームはグループホーム独自に作った理念がしっかりと根付いており、職員一人ひとりがしっかりと把握している。ホーム長の思いが強く伝わってくるなか、入居者はそれぞれのペースで自由に過ごしている。母体である日本医療事務センターは、個人情報について適切な取り扱いが徹底できていることを示す「プライバシーマーク」を取得しており、当グループホームにも大きく掲げてある。

Ｖ．サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）　※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる（参考項目：23,24,25）	○	1. ほぼ全ての利用者の
			2. 利用者の2/3くらいの
			3. 利用者の1/3くらいの
			4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある（参考項目：18,38）	○	1. 毎日ある
			2. 数日に1回程度ある
			3. たまにある
			4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている（参考項目：38）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている（参考項目：36,37）		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている（参考項目：49）		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
		○	3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている（参考項目：30,31）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている（参考項目：28）	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない

	項　目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている（参考項目：9,10,19）		1. ほぼ全ての家族と
		○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている（参考項目：2,20）		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度
		○	3. たまに
			4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている（参考項目：4）		1. 大いに増えている
			2. 少しずつ増えている
		○	3. あまり増えていない
			4. 全くいない
66	職員は、活き活きと働けている（参考項目：11,12）		1. ほぼ全ての職員が
			2. 職員の2/3くらいが
		○	3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
		○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
		○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどできていない

自己評価（宇宙）および外部評価結果（宇宙・大地）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念である「心」を職員全員が周知し、理念を軸にケアプランを考え、実践へと繋げている。	「思いやる心・見つめる心・人はすべて心である」という事業所独自のわかりやすい理念を、外部の訪問者にも見やすいように玄関先に掲げてある。職員にも周知徹底するよう、新人の基礎研修や毎月行うミーティングで確認しあっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	身体的に重度の方が多く、散歩歩行可能者はホーム近くで留まることが多いが、車椅子利用の方が職員と散歩していると、近隣の方はホーム住人と知っているので、花や庭になっている果実をくださる。	自治会への加入ができず、ホームとして頭を悩ます懸案となっている。地域の行事などにも安全面からなかなか参加が叶わず、近隣住民も少ないので孤立しがちになっている。	現在ボランティアを広く受け入れているが、今後は受け入れを定期的に行い、そこから地域に繋げていこうと考えている。地域住民に認知症について理解してもらえるよう勉強会を開催する等、今後も地道な努力が望まれる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	事業所内の体制を確立させることを優先させてしまい、現状取り組めていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定期的に開催できていないが家族会や家族来訪時に意見や要望を直接聞き、出された意見、要望は会議等で話合い入居者のより良い生活をして頂けるようサービスの質の向上に取り組んでいる。	年2回運営推進会議を開催し、延べ8名の職員が参加した。町会長や民生委員、家族、法人の本社職員が参加したが、今回地域包括支援センターからも参加が得られた。	会議の内容が報告事項のみとなってしまい、開催する意義を見失いがちである。 ホームが抱えている課題等を挙げ、活発な意見交換の場になることが期待される。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、千葉市認知症高齢者グループホーム連絡会へ参加し、懇談会等で意見交換を行っている	ホームの管理者は千葉市のグループホーム連絡会の役員を引き受け、他のグループホームとの情報交換等、積極的に活動している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修に参加している。 日々の業務を通して職員に意識付けをし、拘束をしない様努めている。危険回避の為、一時的に施錠する事がある。	法人としてのマニュアルができており、職員は日々の介護の中で意識しながら実践している。入居者の中には外出願望の強い人がおり、家族の了解を得て、危険防止のために一時的に施錠することがあるが、施錠を当たり前のこととは考えていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	研修に参加している。 日々の業務を通して職員に意識付けをし、防止に努めている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者はある程度の理解はできているが、職員に周知できていないため職員は制度について理解出来ていない。管理者から必要性のある方の関係者には説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時、不明な点はないか確認を行い、分かり易い様に説明している。 退去時は、退去理由を事前に家族と十分話し合い、納得した上で手続きしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員は近況報告をし、その際家族からの意見も聞いている。家族会等で出された意見・要望は運営に活かせるよう努力している。「介護相談員」申し込み中	年1回家族会が開催され、出席率は高い。この3月に職員が多く入れ代わり、家族が心配をしたこともあったが、今年度は家族の声も踏まえて、現場のサービスを含め大きく改善していこうとしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや個別に面談を行い、意見や提案を聞く機会を設けて事業所内で検討し、本社へ挙げている。	随時、個別に面談を行っている。ミーティングでは意見や提案を聞くようにしている。	職員が多く入れ代わったこともあるが、研修がまだ一人ひとりに十分ではない面がある。十分な研修を受けてこそ、意見や提案が生まれるものと思われるので、今後に期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	給与に関しては本社が管理しているが、改善に努力している、研修等行う環境を作りスキルアップを目指す努力をしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	主任が研修担当として法人内外の研修へ参加しているが、研修内容を事業所職員へ周知させ、研修を実施する事は出来ていない。研修担当を職員で構成し定期的に所内研修を行う予定		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	社内交換研修をして系列事業所を相互訪問し互いのサービスの質を見直し向上させる取り組みを行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居間もない入居者に対しては特に気を配り、安心して暮らして頂けるよう特に声をかけ困っている事や不安、要望を聞くようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居者と共に家族は不安を感じている為、来訪時話をする機会を作っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	体験入居をして頂き本人にとって合うのか共同生活が送れるのかを見極め、難しい場合は他のGHや施設等紹介するなどの支援を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	身体的にも重度の方が多いが意志決定のの確認を行いながら、職員の一方的な介護にならないよう努めている。自立している方は職員と共に重度の方のお世話をしてくれている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族も何かできることをしたいという気持ちが強いので、食事用のエプロン（ホーム特製）を洋裁の得意な方にお願いしたり、家族が毎週ウクレレ演奏をしながら入居者と歌を楽しんでいる。良い関係を築いている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て、入居前に行っていた趣味サークル等継続している。家族送迎が出来ない場合、ホーム職員が代行し継続できるよう支援している。	入居者は地元の人が多く、時々知人が遊びに来る。また、入居後も日中自宅で家族と過ごし、その後ホームに戻るという人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	その日の状態を把握し、精神的に落ち込み部屋に閉じこもり気味な方は職員の関りを増やしている。職員と共に重度の方のお世話をしてくれている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退院後は、ほとんど関係をもたない。 入院先へお見舞いへ行く程度である。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・個別にゆっくり話しを聞く時間を取ったり、買物介助、誕生日会の開催等で努力し対応している	日常の生活のなかでの仕草や表情のほか、ホーム独自のアセスメントシートを活用し、思いや意向の把握に努めている。また、普段のケアでも本人との関わりを大事にし、単語ひとつでも聞き洩らさないよう注意している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・必要性を感じて努めている。 日常のケアに、声掛けに役立っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々変化している入居者全員の心身状態の把握に努めてはいるが、漏れがある。 スタッフ全員の更なる努力が必要である。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・介護計画の作成に関しては、各入居者の担当者を中心にアセスメントをし、現状に即したものが出来ている。本人の変化に対応し、モニタリングを開催し、ケア内容を工夫・変更・実施する事はほぼ出来ている。	状態変化の激しい場合や、問題を抱えている入居者などについては、家族もカンファレンスに参加している。介護計画は居室担当者が中心になり各関係者を交えて話し合い、作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気付き等を記録に記入し共有はでき、実践もスタッフ全員で、ほぼ足並みがそろっているが、介護計画の細かな見直しが追いついていない。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々に生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅で日中過ごさせたい、過ごしたいという希望に答えるため自宅まで送迎を行ったり、その都度出された希望は家族と相談して行っている。		

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	公民館等で行っている趣味活動サークルなど参加している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症をよく知る主治医へ月1回受診している。また状況に応じ家族と相談し、状態に応じた受診を行なっている。	家族の同意を得て、ホームの提携医療機関の認知症専門医が全入居者の主治医になっている。専門医への通院支援は家族の協力を得ているが、職員も同行し情報の共有を図っている。また、週1回の訪問看護で健康管理を行っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制を訪問看護ステーションと契約している。訪問時には職員が入居者の状態を報告し適切な指示等を受けている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入居者が安心して療養できるよう、管理者だけでなく、職員が交代で見舞いに行きナース等状態のわかる病院関係者に声をかけ情報収集に努め、管理者へ報告し早期退院が出来る様、担当医・ソーシャルワーカー等と話し合いを持っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医より終末期の判断が下り次第、主治医より家族への説明の機会を設ける。その後、家族とホームで今後について話し合い、職員全員で方針に従ったケアに取り組んでいく。	看取りに関する指針も整備されており、過去に2回看取りの実績もある。家族から看取りの希望があった場合はその都度話し合い、医師など関係者の協力を得て支援する意向である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	最低限の対応を身に付ける為、研修や講習を実施している。身に付いているとは言えない。来期からの研修計画を見直し実施する予定。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	防災対策として、消防訓練を消防署へ指導を依頼し年1回、自主訓練を1回実施している。地域との協力体制は築けていない。	年2回の消防訓練では消防署立ち合いのもと、緊急通報装置の使い方やホーム独自の自主訓練を実施している。スプリンクラーの設置工事も近いうちに始まる予定になっている。	自主訓練で夜間想定の訓練計画もある。今後は入居者参加型の訓練も望みたい。また、ホームの周りには民家がないので、地域の協力体制については運営推進会議などで課題に上げ、参加者で話し合うことも必要と思われる。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	完璧とは言えないが、常に一人ひとりを尊重し、　　対応支援している。	一人ひとりの尊厳に配慮して支援をしており、管理者は入居者に対する職員の言葉かけで気になることがあった時は、その都度注意を促している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフ全員、ご本人の意志が表出出来る様努力し、働きかけながら支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のレベル的に希望が出にくい現実はあるが、その中で出来るだけその人らしく暮らせるよう支援している。しかし、決まりや烏合を優先せざるを得ないときもある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	身嗜みやおしゃれの支援は、楽しみながら出来ている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事を楽しく食べることは出来ているが、入居者のレベル的なもので、準備・片付けは出来ていない。可能性のある方には、今後促していきたい。	食材の買い出しが不便なこともあり、宅配業者からの取り寄せで調理をしている。しかし、誕生日やイベント時などは、入居者の希望を反映したメニューになるようにしており、職員も一緒にテーブルを囲んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	介助量の多い方が何人もいる事もあり、しっかり　　支援出来ている。又、その方の力に応じた介助に気を配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前はしっかり出来ているが、朝食・昼食後は不十分である。		

グループホームきらめいと土気　自己評価（宇宙）・評価結果（宇宙・大地）

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方のレベルに合わせ努力している。	入居者のレベルが低下してきてはいるが、出来る限り、排泄チェック表を活用し、時間で誘導するようにしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物の量・バランス等での予防は出来ているが、運動の働きかけ等の予防は不十分である。Dr.・Ns.の指示を受け、下剤を使用し予防、便秘時には増薬、トイレ誘導、腹部マッサージで対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	見守りのみの方には、本人の希望にそった支援が出来ているが、介助量の多い方には、こちらの　都合を優先せざるを得ない。	週3回の入浴が基本だが、毎日入浴を希望する人には対応している。入浴拒否の場合も、タイミングを見て声をかける等の工夫をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々に出来ていると思う。 夜勤者の負担軽減も考慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	ほぼ出来ているが、錠剤の飲み残しが数件あったので、欧薬方法を工夫し実行中。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	ほぼ出来ている。 入居者に合わせたレク・気分転換を工夫している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	立地条件もあり、地域の方々との協力は出来ていないが、季節を感じる外出支援等、家族にも声を掛け努力し、ほぼ出来ている。	入居者が犬の散歩を一緒にすることがある。車椅子利用の入居者も、ホームの近くを一回りしたりすることはあるが、日常的な外出支援までには至っていない。	特に車椅子利用の入居者についての外出が難しくなっているので、家族の助けも借りながら、外に出る機会を増やすことが期待される。

自己	外部	項　目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	職員は理解している、買い物に出かける機会を作り、好きなものを購入してもらっている。支払い等に関しては機能低下しているため職員が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	代筆や電話の取次ぎで本人の希望に添って行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるようテーブルに花を生けたり、テレビをつけっぱなしにするのではなく、入居者の希望に合わせ音楽を流すなどしている。音量にも注意をしている。壁には季節に応じた手作りの物を貼る等している。	広い廊下には畳のベンチを置いたり、一人になれるスペースもある。平屋のホームであり、事務所を通ってユニット間の行き来が出来るので、入居者同士の交流も見られる。壁の桜の張り絵が季節を感じさせた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファーを置き好きな時に利用している。廊下にも各所にソファー、ベンチを配置し思い思いに利用している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	できるだけ使い慣れた家具等を持参してもらっている。寝具に関してもベッドは用意してあるが、今までの様式を取り入れ布団の方はカーペットを引き布団で寝られるよう工夫している。	居室には和室と洋室の2タイプがあり、和室には押入れ、洋室には備え付けの箪笥がる。入居者はそれぞれ自宅から持ってきた家具などを置いて、居心地のよい部屋になっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレへの手摺の設置、浴室の両麻痺に対応可能な2つのタイプの浴槽を設置、浴室内各所に手摺を配置し安全に入浴できるようにしている。夜間一人でトイレに行かれる方は歩行状態に合わせ居室を調整している。		